

令和7年度マイスター・ハイスクール事業 成果発表会 講評シート

管理機関名(新潟県)

1. 取組についての評価

- ・アクアポニックスのミニプラント制作を参加型学習に仕立てて、エコシステム、資源循環、環境との調和、といった重要な知識を習得しつつ、一つの系を作るまでのプロセスを学習するというカリキュラム。地球環境の重要性、温暖化対策の必要性といったことまで学習領域を広げる事も可能なユニークなアプローチと評価できる。
- ・新潟海洋高校と高田農業高校が一つの事業をコラボしながら推進するとともに、その中で、高田農業高校が地域や企業との連携の在り方を先進校の新潟海洋高校から学んでいくというマンツーマンの手法は、企業連携ノウハウや事業推進の方法を学ぶ上で高い効果があり、この方法もまた、一つの普及の方策といえる。
- ・これまでも新潟海洋高校の取組内容は高度であり他校の参考となるものであったが、水産と農業を掛け合わせたことでお互いの専門の良さを十分に発揮でき一層内容が深まっている。また、原料を仕入れ、加工し、活用、販売までの(採算がとれる内容)6次産業化を学ぶ事業の取組は、すでに実践的なレベルに達しており、学習する生徒のモチベーションも間違いなく向上していると推測できる。
- ・特に企業との連携は単に企業が支援しているという関係ではなく、協働して事業を推進しているような状況まで達成されているものと思う。
- ・一連の教育活動の評価を「まなびみらいパス」を用いて継続的に数値の変化で示している。さらにこれを生徒への進路指導などにも活用しており、説得力を持たせている。
- ・水産のHACCP、農業のGGAPともに対応している。大変重要となる品質管理の手法であり、適切である。
- ・異なる教科間での連携協力がうまく進んでいる貴重な事例になっている。

2. 今後の課題と考えられること

- ・テーマ自体は良いと思えるが、まだビジネスの領域においてもトライアル段階のテーマであり、産業界の参入や人材育成がさほど進んでいない領域である。したがって産業界との連携が難しく、その繋がりの希薄さが伝わってくる点が課題。もう少し広く産業化が進んでいる通常の水産養殖や、植物工場などをテーマとした方が、産業界との連携は図りやすいと史料。
- ・新潟海洋と高田農業の実践はカリスマ性の高い産業連携コーディネーターの尽力が大変大きい事業推進であったように思う。この事業から、横展開の方法を伝承するためには、企業連携する際の必要なポイントや事業取組の考え方、検証の方法など、何を継承できるのか、できないのかなど、十分検証した上で、他校への普及を図る必要があるものと考ええる。
- ・「探究」では生徒自らの課題意識や進路選択と関係してテーマ設定するのが望ましいが、やや、学校が方向性を決めたいえでの取組になっていないか。
- ・CEOだけでなく、海洋高校の一般の先生方の実際の様子ももう少し知りたい。
- ・高田農業以外にはどのような横展開を図っていくのかの見通しがほしい。
- ・まなびみらいパスを用いて資質能力を数値で計測する方法が適切である一方、それが普及しないのはなぜか。
- ・地元企業のいっそうの関わりがあると、就業や若者の定着にもつながるのではないか。